



グッドパレード賞受賞

全国高総文

7月31日(土)から和歌山県で行われた第45回全国高等学校総合文化祭「紀の国わかやま総文2021」に、学校法人千葉学園バトンチームとして本校バトン部と千葉学園高等学校バトン部の合同チームが参加。初日のパレード部門では、仙台東高等学校マーチングバンド部と一緒に出場し、金賞に相当するグッドパレード賞を受賞した。限られた観客数にもかかわらず、沿道からの大きな拍手に後押しされ最後まで笑顔でパレードできたという。本校がこの賞を受賞するのは5回目。コロナウイルスの影響で合同練習が思うようできない毎日であったが、炎天下の中、敷地内で汗を流しながら部員たちが動きを反復する姿が思い浮かぶ。こうした状況下での受賞はこれまで以上に感謝の思いが詰まった賞となったに違いない。衣装づくりに部員同様汗を流した保護者の喜びもひとしおだ。大会が現地



バトン部 5度目の栄冠

開催できる喜びとコロナ禍で子供たちを送り出すことへの不安もきつとあったことだろう。
 8月2日(月)は、マーチングバンド・バントワリング部門が行われた。発表ではミスがあり、賞を取ることはできなかったが、ポンポンとバトンを融合させた彼女たちにしかできない演技をできたことに達成感を感じていた様子。久しぶりに現地の大会となった部員たちは、これまでの思いをぶつけるように元気いっぱい笑顔を見せていた。5日間の遠征は、コロナ対策を徹底させ無事終了した。部員たちのパレードの様子、発表は本校ホームページから見ることができる。

東北大会

8月7日(土)宮城県富谷市にある富谷市総合運動公園「富谷スポーツセンター」において第47回全日本バントワリング選手権東北支部大会が行われた。現地での開催が危ぶまれた大会だったが、大会にかかわるすべての人がコロナ対策を徹底し運営できた。結果、ソロトワール、ソロストラット部門に出場した3名が3月に大阪で行われる全日本大会への出場権を獲得した。



- 【成績】
- 《ソロトワール シニアI部門》
 - 第5位 3年 霞 瑠菜(第一中学校出身) 全日本大会へ
 - 《トウバトン シニアI部門》
 - 第4位 3年 村中 燦互(三戸中学校出身)
 - 第5位 3年 清水 李渚(第一中学校出身)
 - 《ペア シニアI部門》
 - 第3位 3年 若本 京良(第一中学校出身)
 - 3年 栗橋 美妃(第一中学校出身)
 - 《ソロストラット シニアI部門》
 - 第3位 3年 霞 瑠菜(第一中学校出身) 全日本大会へ
 - 第4位 3年 村中 燦互(三戸中学校出身) 全日本大会へ
 - 第5位 3年 若本 京良(第一中学校出身) 全日本大会へ
 - 《ダンストワール シニアI部門》
 - 第4位 3年 栗橋 美妃(第一中学校出身)
 - 第6位 3年 清水 李渚(第一中学校出身)

収穫祭

8月26日(木) 放課後、勤労体験講座で植え付けした野菜を収穫した。この日は植え付けからちょうど3ヶ月目。農園コースの生徒たちは大きく育った野菜を前に目を輝かせていた。密にならないよう短時間での作業となったが、仲間と大きさを競い合いながら楽しんで収穫している様子が見られた。体育館裏の



自分を知ろう

9月6日(月) LHRの時間において、スクールカウンセラーの石岡先生に来ていただき2学年で講話を受けた。「自分を知ろう」と題して、エゴグラムを用いて自分の性格を調べる活動を行った。エゴグラムとは、生活全体において、自分はそのような自我状態(自分の心の状態)をとりやすいかを図による表示として検討するものである。石岡先生は「点数が低い、高いを判断するのではなく、どんな性格特徴があるか、自分のことを理解することが大切だ」と述べた。点数が極端に高すぎたり、低すぎたりするところは、それぞれ長所と短所が存在するとして自己分析に役立てた。最後に、自身の特徴を把握したうえで理想のエゴグラムを作成。そのために行えることをチェックリストを見ながら各自文章にまとめた。生徒たちは、文章化することで客観的に自身を振り返ることができ、やりたいことを明確にできたようだった。



県3部リーグ

第4節

7月25日(日) 三本木高校戦(三農高グラウンド) 6-0
〈得点〉 1年 山家 昌悟(平塚市立土沢中学校出身)

3年 坂上 海斗(三戸中学校出身) 2
3年 佐々木琉惟(三戸中学校出身)
3年 吉田 光汰(根城中学校出身)
3年 佐藤 大輝(三戸中学校出身)

第5節

8月1日(日) 八戸西高校戦(PAMCOフィールド) 1-4
〈得点〉 3年 佐々木琉惟(三戸中学校出身)

※無観客試合のため、写真はマネージャーの石藤風紗さんが撮影(3年・根城中学校出身)



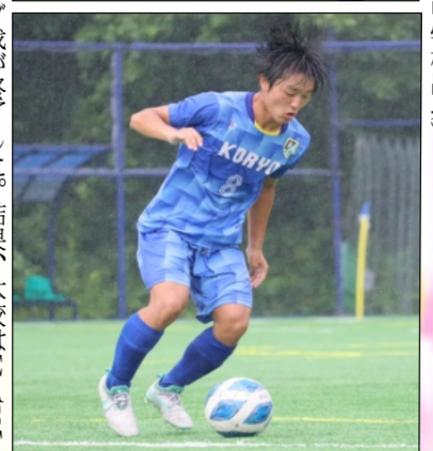
第6節

8月7日(土) 八戸高校戦(高森山運動公園球技場) 5-0
〈得点〉 1年 徳田 琉星(静岡市立蒲原中学校出身)

3年 佐々木琉惟(三戸中学校出身) 2
3年 吉田 光汰(根城中学校出身) 2

第7節

8月9日(月) 光星高校3rd戦(PAMCOフィールド) 2-2
〈得点〉 3年 佐藤 大輝(三戸中学校出身) 2



東西各8チームで争う総当たりリーグ戦が終了した。結果、本校はEAST第2位となり目標としていた2部昇格にあと一步及ばなかった。

新人戦地区大会

8月21日(土) 青森県サッカー地区新人大会が行われた。本校は、一回戦八戸東高校と対戦し0対2で敗れた。試合後、梅内拓真君(2年・名川中学校出身)は、「新チームとして初めての試合となりました。いい点もありましたが、連携が乱れ焦る場面が多かったように思います。相手のペースにのまれ自分たちがやりたいサッカーができませんでした。先輩たちがいなくても向陵サッカーができるようにしたいです。自身も皆を引っ張れるようもっと責任感を持って試合に臨みたいです」と述べた。青森県のコロナウイルス感染状況も踏まえ、新人戦地区大会は中止となったが、県大会は10月末に行われる予定。

8月21日(土) 青森県サッカー地区新人大会が行われた。本校は、一回戦八戸東高校と対戦し0対2で敗れた。試合後、梅内拓真君(2年・名川中学校出身)は、「新チームとして初めての試合となりました。いい点もありましたが、連携が乱れ焦る場面が多かったように思います。相手のペースにのまれ自分たちがやりたいサッカーができませんでした。先輩たちがいなくても向陵サッカーができるようにしたいです。自身も皆を引っ張れるようもっと責任感を持って試合に臨みたいです」と述べた。青森県のコロナウイルス感染状況も踏まえ、新人戦地区大会は中止となったが、県大会は10月末に行われる予定。



8月21日(土) 青森県サッカー地区新人大会が行われた。本校は、一回戦八戸東高校と対戦し0対2で敗れた。試合後、梅内拓真君(2年・名川中学校出身)は、「新チームとして初めての試合となりました。いい点もありましたが、連携が乱れ焦る場面が多かったように思います。相手のペースにのまれ自分たちがやりたいサッカーができませんでした。先輩たちがいなくても向陵サッカーができるようにしたいです。自身も皆を引っ張れるようもっと責任感を持って試合に臨みたいです」と述べた。青森県のコロナウイルス感染状況も踏まえ、新人戦地区大会は中止となったが、県大会は10月末に行われる予定。



選手権本選へ

8月29日(日)、第100回全国高校サッカー選手権青森県大会一次予選二回戦が弘前市運動公園で行われた。本校は青森東高校と対戦。前半を2対1で折り返し、後半は4得点零封で抑え勝利した。県大会本戦となる二次予選は、10月15日(金)に行われる。東奥学園高校が相手だ。県内のコロナウイルス感染症の状況によっては試合がいつどうなるかはわからない。9月中は各チームが思うように練習できないのは同じ。部員たちは各自で練習を積み、それぞれが「自分のため、チームのため」にできることをとにかくやるだけ」と話し、感染対策を取りながらチームとしての練習が再開できる日、そして試合を何より待ち望んでいる。



文化祭中止

10月2日(土)、3日(日)開催予定だった文化祭の中止が決まった。八戸市のコロナウイルス感染症拡大を受けて苦渋の決断となった。中止にせず、昨年同様生徒と職員のみで1日でも開催できないか検討したが、県のコロナウイルス感染症対策に促され、9月の準備活動ができない等の状況を踏まえての結果となった。今年度の文化祭は中止となったが、スローガンは2年生の鈴木さんの「結」、ポスターは1年生の高清水さんの作品が採用され、9月6日(月)の放送にて生徒会副会長が紹介、各クラスで表彰された。

〈スローガン最優秀賞〉 2年 鈴木 篠(大館中学校出身)
「結」は「むすぶ」でも「ゆい」でもいいと考えて作りました。「互いに労力を提供して助け合うこと」。今、コロナ禍で世界中の人が生活を制限されながらも感染対策に協力していたり、医療従事者たちが頑張っていることも意識しました。私たちも仲間と手を取り合って取り組もうという意味も込められています。今もそしてこれからも。

〈ポスター最優秀賞〉 1年 高清水里桜(南浜中学校出身)
採用されると思っていたので嬉しかったです。文化祭の準備を皆で協力して楽しく発表できたという思いで、明るく元気なイメージで作成しました。中学生の時、文化祭を見に来たことがありましたが、先輩たちが生き生きとしていたのを覚えています。一人一人が輝ける場として文化祭をやりたいかったという気持ちはあります。クラスの皆や学年そして部活動の仲間との活動、発表の場は一つなくなりませんが、今後も自分のやれることを皆と協力してやっていければと思います。



採用されると思っていたので嬉しかったです。文化祭の準備を皆で協力して楽しく発表できたという思いで、明るく元気なイメージで作成しました。中学生の時、文化祭を見に来たことがありましたが、先輩たちが生き生きとしていたのを覚えています。一人一人が輝ける場として文化祭をやりたいかったという気持ちはあります。クラスの皆や学年そして部活動の仲間との活動、発表の場は一つなくなりませんが、今後も自分のやれることを皆と協力してやっていければと思います。